

(パネルディスカッション)

公共図書館からJMLA への提言

一般市民の視点から

愛知県図書館
サービス課 仲井敏夫

公共図書館が「医学医療健康情報」への入り口の役割を担うべきである。あるいは、担って欲しいとの要求が高まっている。

愛知県図書館の現状を報告し、その要求への対応の可能性や限界を考え、あわせて医学専門図書館への期待につき述べる。

愛知県図書館が所蔵するNDC4 類の図書は、約 6万 5千冊。その38% にあたる約 2万 5千冊が医学分野の図書である。しかし、除籍等による資料の積極的な更新が行われず、出版年が古い資料も残っている。そして、医学書の出版・流通の特殊性や選書の困難さのため、蔵書の質的バランスにも問題が多い。

また、「参考事務取扱要領」が回答禁止事項の一つに医療相談をあげていることや、医学資料に対する専門的知識の不足から、資料の収集や利用者への資料提供に積極性を欠いたことも否定できない。

しかし、毎日返却されるNDC4 類の図書の半数近くが、医学健康情報に関する図書であることから、利用者の要求が多いことは間違いない。

平成 15年に定めた「中 短期資料収集方針」は、利用・要望共に多い分野と認め、多種多様な出版物の中から厳選して収集するとしている。

今後愛知県図書館が、限られた人員、予算の中で医学的分野に関する専門的知識を有する職員を育成し、高額な医学書を更新してゆくことは容易ではない。わかりやすく信頼性の高い資料を収集し、整備された書誌情報を使って、誰でもが的確な情報を利用者に提供できるよう環境を整えることが重要となる。

そのため、JMLA が推進する「国立ライフサイエンス情報センター」の機能のうち、国内データベース/二次情報作成機能と、情報評価/情報加工機能の早期実現が望まれる。また、医学図書館が市民に情報提供サービスを実施するとともに、公共図書館からの依頼に応えられる体制を作ることも必要である。